

建設防災 ボランティアニュース 第 17 号

平成 17 年度東京都・町田市合同 総合防災訓練に参加して (水防訓練)

平成 17 年 9 月 1 日、町田市鶴間二丁目の鶴間公園にて、水防工法設置訓練が実施された。心配された雨も無く、残暑厳しい天候であったが、訓練は滞りなく進められた。

広い訓練会場には、国土交通省が用意した豪雨や地震動体験車のコーナー、東京都水道局による給水車や災害時仮設トイレ・手洗いの設置、東京都建設局による水防パネル展示コーナーなどが準備され、消防庁による消防ポンプ車で放水デモンストレーションで訓練が始まった。



(消防 放水デモンストレーション)

訓練には、地元町田市民や小学生が参加し、災害の疑似体験をするとともに、災害への備えを熱心に学習している様子であった。

そんな中で、水防工法設置訓練は、南東建工事課杉木課長補佐の号令で参加者が集合・整列し、宮良南東建副所長の開会挨拶で始まった。訓練する水防工法は、「土のう、水のう」を使った

- ①直線状の積み土のう工法、
- ②噴出する「水みち」の水圧を抑える円形の釜段設置工法)、
- ③地下駐車場入り口からの水の浸入を想定した「水のう」による積み水のう工法である。

訓練生は、都立小川高校(バスケット部)20 余名、都立成瀬高校(ボランティア部)10 余名、国際ボランティア学生協会員 30 数名で、皆若い元気な青年たちであった。



(積み土のう工法に挑む高校生)



(釜段を作り上げる国際ボランティアの大学生)



(駐車場入り口に積み上げる「水のう」)

また、指導員は、町田市消防団 5 名、南東建工事課職員 9 名、そして建設防災ボランティ

ア会員 20 名、である。



(参加建設防災ボランティア会員)

3組織の指導員たちは、防災服で身を固めており、大変頼もしい姿に映ったと思う。

スコップを手にするひと、土のう袋を拡げるひと、砂を詰めた「土のう」を運搬するひと、「土のう」を積み上げるひと、それぞれがはじめてのようだが、真剣に取り組んでいた。指導員の方々も段々熱が入り、気温も 30 度を超えて暑かったにもかかわらず、汗をもらともせず指導にあっていた。杭を打つ頃には、訓練生と指導員の息も合ってきて、カケヤを持つ学生たちが頼もしく見えたのは、気のせいばかりではなかったように思う。

無事訓練が終わり、全員に配られた冷たい飲み物が喉を潤してくれた瞬間は、いい汗をかいたせいか、ひときわおいしかった。

鶴間公園での防災訓練の最後に、野村河川部長、そして町田市助役の閉会挨拶があり、訓練は無事終了した。

最後に、準備にたずさわった南東建職員をはじめ、訓練に参加した河川部職員の方々に、心から敬意を表します。

南東建班 杉 本 隆 男

多摩地域南部に直下型地震発生

平成 17 年度東京都・町田市
合同総合防災訓練概要(道路)

・日 時 平成 17 年 9 月 1 日(木)

午前 6 時～11 時

- ・テーマ 連携
- ・対象地域 町田市内、都内その他地域
- ・想 定 平成 17 年 9 月 1 日午前 6 時頃、多摩地域南部直下を震源とする強い地震が発生し、町田市で震度 6 弱以上を記録。
市内各所で住宅、商業施設等に大きな被害が発生し、さらに、道路、鉄道等の交通網が遮断され、電気、水道、ガス等のライフラインが寸断された。
- ・訓練会場 JR 町田駅前、原町田大通り
- ・訓練内容 道路障害物除去等
- ・実施機関 建設局、警視庁、陸上自衛隊 町田市

平成 17 年度の総合防災訓練は上記の要領で実施され、東京都建設防災ボランティア協会から 8 名(そのほか河川に 20 名)が参加しました。



(訓練に参加した防災ボランティア)

ご承知のとおり町田市内には河川敷、工場跡地等の広いオープンスペースがありません。したがって、訓練は 5 会場に分散され、かつ日常生活の場を巻き込んだ訓練となりました。

9 月 1 日の防災訓練に先がけ 8 月 18 日に説明会、25 日にはクレーン車等の重機も参加してリハーサルが、台風 12 号の余波の中で繰返し行われました。

リハーサルの最大の狙いは、市民生活の一部を一時中断して訓練が実施されるため、決められたスケジュールは必ず守る(交通開放時間)ということ。市民の目の前で行う訓練であり、地震に対する不安を少しでも軽減し、市民

に安心感を与えられる訓練とするにはどうあるべきかを検証することでした。

8 月末のぐずついた天気とは打って変わって、訓練当日は厳しい残暑となりました。

8 時 45 分平田南東建所長(所本部長)から訓示があり、災害対策本部が設置され、訓練参加者はそれぞれの持ち場に駆け足で向かいました。



(路上に設置された案内看板)

我がボランティア協会員は、訓練会場に市民が入り込まないように、その説得と理解を求めることが役割として与えられ、長年培ってきた行政経験を生かし、その威力を十二分に発揮しながら役目を全うしました。

9 時から交通が規制され災害現場の設営が始まり、準備は順調に進みました。

10 時平田所本部長が柿塚局本部長に訓練開始を報告、柿塚本部長から各関係機関と十分連携することの指示があり、道路障害物除去訓練が開始されました。



(バス乗客救助訓練)

訓練の圧巻は 2 台の乗用車の上に大型バスが横転し車内に乗客がとじこめられているとの想定での救助訓練(警視庁)。報道関係者が周りを取り囲み現場が見えにくいほどでした。

ダンプカーの泥落しを活用しての仮橋の設置訓練(建設局)はこれまでの訓練とは趣を異にし興味を引きました。



(放置車両、障害物撤去訓練)



(仮橋を渡る緊急車両)



(倒木等路上障害物撤去訓練)

クレーンのエンジン音、パトカーや緊急車のサイレン、重機や作業車の走行などが相まって臨場感溢れる防災訓練で、会場が狭いだけにより現実味があったと思いました。

防災ボランティア参加者〈アイウエオ順・敬称略〉

植杉隆夫、内川清、奥山義夫、倉増功美、武内利夫、平瀬秀一、丸岡敏夫、山口岩男、加藤基雄(本部)

南東建班 武内利夫

「道の日」

今年の8月も昨年に負けずに暑い日が続きました。皆様如何でしたか、私は「クールビズ」を実践したお陰で、昨年に比べると大分楽に過ごせました

建設業界には「盆休み」と言う風習のあるこの暑い8月に、なぜ「道の日行事」を行うのかと言うと、道路整備の長期計画である第一次道路改良計画が大正9年8月10日に実施されたことに由来するのだそうです。

この行事とも随分長い付き合いで、思い起こしてみると、池袋や多摩センターなど毎年会場が変わった時期もありましたが、最近では都庁周辺に定着したようです。

さて、今年も行事は8月9日から11日の3日間開催され、10日には都民ホールで道路功労者と標語入選者の表彰式が行われました。

協会からも24名の会員が観客として参加しました。



(岩永局長と受賞者)

式典は例年どおりの内容ですが、いっものながら標語に入選した小学生の可愛らしい振る舞いには気持ちが和みます。

この小さな子供たちのどこから、あのすばらしい標語が出てくるのかと感心させられます、改めて、入選作を紹介します。

○最優秀賞

「気をつけて 点字ブロック かくれちゃう」 足立区立千寿桜小学校
5年 阿部 愛紗美さん

○優秀賞

「いってきますといくみち ただいまとかえるみち だいすきなみち」

光塩女子学院初等科

1年 先野 ひかりさん

「だいすきな このみち ぼくのたからもの」 立教小学校

1年 小田 大和さん

「ゴミよりも 花がさいてる みちがすき」

光塩女子学院初等科2年 吉田 彩さん

「種まいて この道あの道 笑顔さく」

明星小学校5年 北川 愛奈さん

「花も咲く 豊かな道を つくろうよ」

江戸川区立第三葛西小学校

5年 木村 太洋さん

「この道も きっと生まれる 思い出が」

日本大学豊山女子中学

1年 類家 優さん

「作ろうよ 道から始まる 美しい街」

同 上 1年 佐々木 まゆさん

「広げよう 心に道に バリアフリー」

文京区立第六中学校

2年 仲田のぞみさん

「優しさと、緑があふれる 道づくり」

江東区立深川第三中学校

2年 原嶋 由歩さん

「道を守ろう、歴史が歩いてきた道を。 道を作ろう、未来の道を」

府中市立府中第一中学校

3年 金 明さん

いかがでしょうか何歳になっても、こうありたいですね

事業担当理事 雑 賀 徹

道路の施設とバリアーフリー 点検の実施報告

7月12日(火)に実施しましたが、その状況と感想をあわせてご報告します。

当日のバリアーフリー点検の対象は、清澄通り(特463)の勝どき一丁目交差点から相生橋までの1.5km、また施設点検は、産経通り(特402)の有楽町駅前から神田川の昌平橋間の1.8kmです。

○バリアーフリー点検は、所長をはじめとする管理職から新採職員までの14名に会員2名が加わり、二班に分かれて片側ずつ車椅子を使用し点検を実施しました。

勝どき駅出入口付近の放置自転車、商店前に立て看板などがあったが、歩道巾員が7mと広く、特に大きな支障とはならない。

ただ、橋梁の取付道路勾配が最大15%もあり、車椅子のみならず自転車の通行も大変である。また誘導ブロックが何箇所かでガタツキが見られた。

車椅子の手配について尋ねたところ、2台とも事務所に常備しているとのこと、是非、今後とも有効な活用を図って欲しいものと思いました。

○産経通りについては、会員4名のみによる点検です。

日本を代表するオフィス街で、近年、丸の内、大手町などで大規模な再開発が進んでいます。しかし、残念ながら有楽町のガード下には、数個のダンボールハウスが放置されています。困ったものです。その他の点検では、協会の厳しいチェックでも、局部的なブロックのガタツキなどのほかは特に支障は見当たらない。

○点検方法について

一建は、点検路線のうち一路線を会員のみが担う方法を採用してきました。

これでは、会員が現職の方に豊富な経験を直接お伝え出来ない(会員の自負)、また成果のまとめ方の関係もあり、今秋の点検に向けて、より効率的な方法について事務所と打ち合わせを行い、決めていきたいと思っています。

「雑感」

今回の点検対象は、都心と下町と極端に異なる路線であった。道路空間と沿道の土地利用で街の雰囲気は全く違うことは、やむを得ないが、放置自転車や立て看板の有無等で歩道空間の使い方の差が大きい。

また、全体の道路に関連するが、狭巾員の歩道に似合わない植樹や自転車の通行などで歩行者の安全が脅かされている個所も多い。

利用しやすい道路、電線地中化の進展による望ましい道路空間、そこに沿道の建物が調和して美しい地域の実現が出来よう。今後に期待したい。

一建班 堀中 逸

17年度前期「道路施設徒歩点検」 に参加しました

第二建設事務所の道路施設徒歩点検は、今年度も実施され、ボランティア会員も参加しました。

事前説明は7月8日に補修課勝田補佐、重川主事から受けました、ボランティアは会員だけで2班編成し、2路線を点検することになりました。

点検実施日は7月19日(火)で、午後1時現地集合としました。この日はとても暑い日であったが、二建担当会員17名中14名の参加が得られ、約3時間、一般の歩行者、車の運転者の視点に立って、歩道、車道の点検を行いました。

両路線とも比較的良好に管理されており、指摘箇所は下記点検結果のとおりで、事故につながるようなものではありませんでした。二建会議室で点検結果の報告書をまとめ、その日に提出しました。

作業が終わったのが夕方になったので、参加した会員で反省会、意見交換会を行った後散会しました。

なお、建設事務所の改編があり、二建管内は旧七建所管の区域が増えました。二建担当

ボランティアも 11 名が 17 名となりましたので、次回からは、点検班も 3～4 班に増すことを検討することになりました。

「道路施設徒歩点検結果」

(1) 特例都道 418 号線～首都高速道路目黒入口付近

- 1) 歩道部に雑草
- 2) ダンボールの囲い 2m×1m
- 3) その他

(2) 主要地方道第 312 号線～JR 目黒駅付近

- 1) 車道部の舗装のひび割れ
- 2) 配電盤のガラス破損
- 3) 中央分離帯ブリンカー破損
- 4) その他

(3) 参加ボランティア会員

・市村 ・小川 ・加藤 ・小林 ・渋谷 ・野村
・平原 ・本郷 ・本間 ・柳川 ・山口 ・林
・倭文 ・渡辺、林
二建班 山口 岩男

河川愛護月間行事報告 「環七地下の巨大トンネルを体験」

実施日 7 月 24 日(日) 8:30～12:45

場 所 神田川取水施設

応募対象 都民

応募者数 230 名

実数 168 名

イベントの内容

管理棟内—パワーポイントと模型による施設説明(約 20 分)

トンネル内—トンネル見学、笹舟づくり、笹舟流し、暗闇体験(約 15 分)

管理棟広場—スーパーボール掬い、おみやげ渡し(事業関連資料、うちわ)、ジュース渡し(約 10 分)

ひとつの班の所要時間は 1 時間 15 分

見学者の班編成—50 名前後/班、色リボンにより 4 班編成

一班赤色(41 名)、二班緑色(47 名)、
三班黄色(47 名)、四班赤色(33 名)

防災ボランティア—10 名

中田(管理棟内施設説明)、井出(屋外案内・警備)、高本・加藤(笹舟)、飯山・村松(スーパーボール)以上三建ボランティア。

他からの応援ボランティアは石島、田島、高橋、菊池(トンネル内見学者誘導・案内)

数日前の暑さが多少やわらいで、時折の雨のパラつく天気の中、神田川取水施設管理棟二階会議室へ。

前日震度 5 の地震について安全点検を行い、本日の見学施設も含めて異常なしの報告を佐藤補佐から受けた。

私は三建か本部からの連絡あるかなぐらいの感覚でぼーとテレビを見ていたが、皆さんはどうされていたのでしょうか。

8 時半、三建職員、防災ボランティアなどスタッフが揃ったところで、全体の流れと役割分担の説明を受け。各自持ち場へ移動し見学者の到着を待つ。

8 時 50 分頃から見学者が集まり始め 9 時半、定刻どうり一班の受付を開始する。受付終了後二階会議室へ誘導する。

会議室で説明を聞いた後階段・エレベーターで地下に降りトンネルを見学して、再びエレベーターで地上に上がり、スーパーボール掬いで遊び、おみやげをもらって帰途にとゆう順で、二班からは 30 分毎に前班が地下に降りたら、会議室にあげる方法で行われた。



(トンネル内笹舟流し)

このイベントは人気があり、前回まで地元(中野区、杉並区主体)住民を対象に行ったものを、今回初めて対象を都民全体に広げて行

われました。子供さんから高齢の方々まで年齢層はひろく、ご夫婦、親子連れ、若いカップルと様々でした。



(スーパーボール掬い)

運営も受付から始まって、見学者の送り出しまでスムーズに流れ、無事故で終わられたことは何よりです。これは、毎年積上げてきた実績をもとに、三建職員はじめ協力いただいている工事関係者による周到な準備なくしては出来ません。改めて感謝いたします。これに慢心することなく、安全対策を万全にして、今後も事業への理解を深めていただくための創意工夫をお願いし、三建恒例の好評イベントとして増々充実されることを祈ってます。

三建班 井 出 和 夫

六建と防災ボランティア との話し合い

六建ボランティアは、事務所で行われる防災訓練や道路施設点検等に参加していますが、この度六建から私共防災ボランティアと、顔合わせと意見交換を兼ねて会議を行いたいというお話がありました。

私達防災ボランティアとしても事務所の幹部と一同に会うことが出来るので、早速メンバーに日程の連絡を行いました。

防災ボランティア会議が予定された8月26日(金)の前日は、台風11号が関東地方を直撃

し、六建職員は徹夜で警戒しておられ、当ボランティアメンバーも台風の行方次第で被害が続出すれば折角の機会も中止になるかもしれないと心配しました。

幸い台風による被害は無く、事務所から吉田所長さんを始め幹部の方々12名と、当ボランティアメンバーも12名が参加して、無事予定通り午後3時半から会議を開催することが出来ました。

事務所側、ボランティアメンバーの自己紹介に続いて吉田所長から、建設防災ボランティアの日頃の活動に敬意と感謝の言葉を頂き、更にこの会合が、災害発生時有効に機能されることを希望されると述べられました。

殊にこの4月から所管区域が拡がり、職員がまとまって全力で職務に当たって、事業を円滑に進めているとの挨拶がありました。

会議では小山庶務課長より事務所で用意された会議資料に沿って、本日の会議の目的や事務所の災害対応と防災ボランティアの役割、災害発生時の初動体制等を分かりやすく説明していただきました。

続いて、廣木副所長兼工事課長、遠藤補修課長からそれぞれ、今年度所管事業のお話をいただきました。

両課とも文京・台東両区が新に六建管内となり、仕事量の増を職員一人一人の創意工夫でカバーしつつ、取り組まれている様子が頼もしく感じられました。

その後、質疑応答に移りボランティアメンバーから、災害発生時に参集するための交通手段、事務所到着後のボランティアの役割(職員との業務分担)、災害用備蓄物資の管理等具体的質問が相次ぎ、その都度、吉田所長以下担当課長から懇切丁寧な回答を頂き大変有意義で和やかな話合いとなりました。

今回の話し合いを契機とし、こうした会議を積み重ねることにより、一旦有事の際、第六建設事務所職員と、六建防災ボランティアメンバーとのスムーズな連携が図れることを改めて確信しました。

最後に本紙上を借りて、第六建設事務所の皆様に六建防災ボランティア、一同感謝の意を表する次第です。

六建班 増 沢 一 朗

西多摩建設事務所の行事に参加

私たち西多摩建設事務所担当班は、3回の同事務所の行事にボランティアとして協力参加しましたので簡単に報告いたします。

1. ”川を歩こう多摩川コース“

平成17年7月10日（日）実施

（鳩の巣駅集合→白丸ダム魚道見学→数馬峡橋間約3km）

要請人員 5名（小山弘光、佐藤肇、岸忠夫、今成三郎、池野鎮雄）

行程は同区間の遊歩道を2時間かけて歩く計画で、毎回の参加者は比較的年配者が多いのが特徴です。また、毎回50名の一般参加者を募集して実施しているようですが、キャンセルが多く、当日の参加者は半数以下となっているようです、主催者側より一般参加者が少ないと言う現象が続いているので、募集方法の工夫が必要と感じました。

この行事には、既に4回ほど参加していますが毎回参加者の多くが奥多摩の自然、多摩川の清流、白丸ダム魚道の規模の大きさ等目の当たりにして感激して帰って行きます。

2. “道路施設とバリアフリーの点検”

平成17年7月14日（木）実施

（新奥多摩街道、主29号立川青梅線、羽村市羽加美一丁目～小作台三丁目間。1.4km）

要請人員 4名（小山幸也、伊藤浩之、松本幹男、池野鎮雄）

1班5名体制で4班編成し協会員は各班に1名参加し、午前2回、午後2回、歩道の点検、車イスによる走行性等の現況調査に参加。

実際に車イスで走行したが健常者は何の支障感じない2%勾配の歩道も、切り下げ、歩道巻き込みの擦りつけも車イス利用者にとっては難所の連続で危険にきわまる構造であることが痛切に感じられた。我われが過去に手掛け当然のように造った道路、特に歩道の構造が、これほど車イスの走行に不向きであったと思い知らされました。反省

3. “平井川クリーンナップ作戦”

平成17年7月23日（土）実施

（平井川、平高橋～南小宮橋間の清掃、美化）

要請人員 2名（伊藤浩之、松本幹男）

水辺が快適に親しめるように平井川を清掃、美化する作戦で都民、地元高校生の参加者43名で実施した。協会員は清掃作業補助、安全確保・誘導など付近の巡回等協力した。

3行事とも7月に集中し猛暑の中での活動でしたが事故もなく無事終了できました。ボランティア活動も回を重ねるごとに経験をつみ、参加者との付き合い方、主催者側の意向に沿った効率的な行動等的確に出来るようになっていくことを感じております。また、行事とは別に、3月17日西建所長をお招きして立川某所で懇親会を開催し顔合わせをしました。

その後、上記行事に参加した協会員個々に対し高橋所長より丁寧なる御礼状をいただきましたことを報告しておきます。

西建班 池 野 鎮 雄

南東建境川クリーンアップ 作戦 参加記録

7月10日（日）午前9時、前夜の豪雨が嘘のような清掃作業日和となり、総勢500人が親水広場等に集合。近隣の親子連れ、自治会、ボーイガールスカウト、守る会、企業、青年会議所、市、都職員*OB等幼稚園児から80歳代の多彩なメンバー。実行委員長、町田市長、相模原市長、小田南東建所長の挨拶の後、実行委員会より行事の趣旨、作業上の注意事項の説明。因みに行事の趣旨とは「境川のゴミ清掃をすることにより、川を大切にすることと自然環境美化への啓発と共に、町田市民と相模原市民が共同作業をしながらお互いを助け合う気持ちを育て、地域の街づくりを進める広域コミュニティの育成を図る。9時30分より各班に分かれて清掃作業開始。参加者は普

段着で軍手、長靴（我々は運動靴）、ゴミ袋持参にリュック背負いの帽子スタイルが多し。わが班は境橋から谷口橋の管理用通路の清掃を担当。ペットボトル、缶、タバコの吸殻、ビニール袋等が圧倒的に多し。当日参加の女子中学生と雑談をしながら一緒に回る。途中で一円玉を拾う。川の中は昨日の雨で増水しており、水中は危険なため入れず。清掃の成果は45リットル入りのビニール袋一杯。集積場所で分別、自転車等大物も有。一円玉は募金箱に。

11時30分から、せせらぎ公園で閉会式。「川もきれいになったが、心も清掃された気がする。」「今年で5回目のクリーンアップ、続けることが大切、来年も参加します。」「両市民の意見交換の場をこれからも多く設けたい。」等多くの感想。

東京都から初めての共催で南東建所長以下河川部含め12名、建設防災ボランティア3名（植杉隆夫、丸岡敏夫、佐藤貞一）計15名参加。事故もなくOB同士のコミュニケーションも図れた、有意義な一日でした。

南東建班 佐藤貞一

わくわく川清掃&川あそび

「河川愛護月間」行事の一環として行われた「わくわく川清掃&川あそび～黒目川・落合川～」が7月17日（日）に開催されました。

当日は、梅雨明け宣言された前日とあって、薄曇りではあったが蒸し暑い天候の中での実施でした。

この催しは、地元東久留米市の環境団体が主体となって運営する実行委員会の主催により、今回で12回目の開催でした。今年も地元小中学生を中心に多数が参加し、すっかり地域に定着したように思います。

清掃作業は、地元の方々と東京都関係者がそれぞれ分担して実施しました。

北北建からは田所副所長、野村課長をはじめ12名が、河川部からは須藤課長をはじめ5名が参加し、わがボランティア会員としては7名（岩田、金子、中山、名和、根本、花田、武田）が参加しました。



（参加防災ボランティア会員）

今年の清掃作業の特徴的なことは、ゴミの量が昨年の半分以上と思われる程少なかったことです。まことに喜ばしい限りです。

来年以降も更にゴミが減少し、この黒目川・落合川が地域に親しめる川として、今後一層地域に根づいていくことを参加者一同願いつつ、清掃作業を終えました。

清掃作業の後には、住民の方々からトン汁などが振舞われ、作業の疲れをしばし癒してくれました。

正午過ぎからは、北北建の田所副所長、東久留米市長の挨拶に続いて各種イベントが行われたところでした。

各種イベントをみながら東久留米駅前の中華店に移動し、食事を摂りながら川づくりについて楽しく懇談し、有意義なひとときを過ごしました。

最後に、北北建の皆様には、事前の準備や当日の温かいご配慮に感謝申し上げます。またボランティア会員の皆さんも大変ご苦労様でした。

北北建班 武田 稔

道路点検報告

主55号線（日産通り）を点検！

7月6日（水）、うす曇の絶好の道路点検日より、武田リーダーのもと9名のメンバーが参加し、所沢武蔵村山立川線を南の五日市街道から北は旧青梅街道に至る区間、約4kmの徒歩点検を行いました。

スタートは、旧日産自動車工場の門前からです。補修課佐々木工務係長、尾崎主任のナビゲートの

もと南北2班に分かれて行いました。

今回の点検のポイントは危険箇所です。電柱などに立看板を取り付けるのに使用して残されている針金やマスコミを賑わせたガードレールの金属片に着目しました。また、前回調査時に指摘された箇所のアフタケアの確認です。

今回の点検で改めて感じたことは、電柱に巻きついている針金の危険性でした。丁度顔の高さに針金が飛び出している箇所が随所にあり、自転車などとすれ違った時など一つ間違えば頬や目などを傷つけるのではないかと、この思いにゾッとしました。

改めて徒歩点検の重要性を実感した貴重なひと時でした。

もちろん、点検後の反省会が盛り上がったことは言うまでもありません。

また、頑張りましょう。ご苦労様でした。

北北建班 根本 康雄

会員は全員「ボランティア保険」 に加入しています

ボランティア活動中(訓練・研修・事業協力活動などを含む。)、活動参加の往復途上で遭遇した傷害(死亡)事故及び賠償責任事故の際、死亡保険金・入院等補償金、賠償保険金などが受けられます。(免責条項あり)

・ 事故に遭ったら

団体活動中は→ 所属のリーダーまたは当該行事のリーダーを通じて

個人で活動中は→ 所属のリーダーを通じ、または直接保険担当理事に速やかに報告する。

・ 報告事項

- 1 事故者の 住所・氏名(ふりがな)・生年月日・連絡先電話 Fax
- 2 事故発生日時
- 3 事故時の活動内容
- 4 事故発生地
- 5 事故区分 傷害(死亡)事故か賠償責任事故か
- 6 事故発生状況
- 7 治療医療機関名及び傷害等の程度(入院・通院・手術の有無など)

8 賠償事故の場合は相手方及び被害物・損害の程度

- ・ 事故が発生したら第一報を速く
詳しいことは後日で結構、担当が連絡を取り合って進めます。

保険担当(窓口) 荒木理事

連絡電話 090-4457-2960

Fax 042-331-5443

勝鬨橋、橋脚内見学ミニツアー 内活動の報告 ～協力者の案内活動が一巡～

東京都建設防災ボランティア協会による勝鬨橋橋脚内の市民案内は、87名の協力会員の活動で進められて参りました。

5月12日の第1回から9月8日の第18回までの活動で、協力者全員が一巡致しました。猛暑の中、或いは梅雨や14号台風の前兆による雨天のなか、案内に汗をかきながらのご奮闘、本当にご苦労様でした。

協力者の活動が一巡したところで、概要をまとめ下記に報告致します。

- ①毎週木曜日、全てに見学応募があり、雨天中止もなく18回(班)活動しました。
- ②4クール/日×18回(週)=72クール、のうち66クールで活動しました。
- ③全見学者は338名でした。内約37%が女性の方でした。
- ④見学者へのアンケートに記された感想等で、多かったのは以下の内容でした。
 - ・ 当時の日本の国産技術に感激した。(多数)
 - ・ 先人の技術に驚嘆。橋の設計、工事の偉大さに驚いた。(多数)
 - ・ 川の中に巨大な機械室があり、感心した。(多数)
 - ・ 皆さんの説明が親切でわかりやすかった。(多数)
 - ・ 丁寧な説明で、又安全にも十分配慮されありがたかった。(多数)
 - ・ 何時の日か橋の開くことを願っている。(多数)
 - ・ 建設中や開閉している頃の写真を見

たい（6件）

⑤見学案内一巡期間に、資料館へは7、000人を超える入館者がありました。

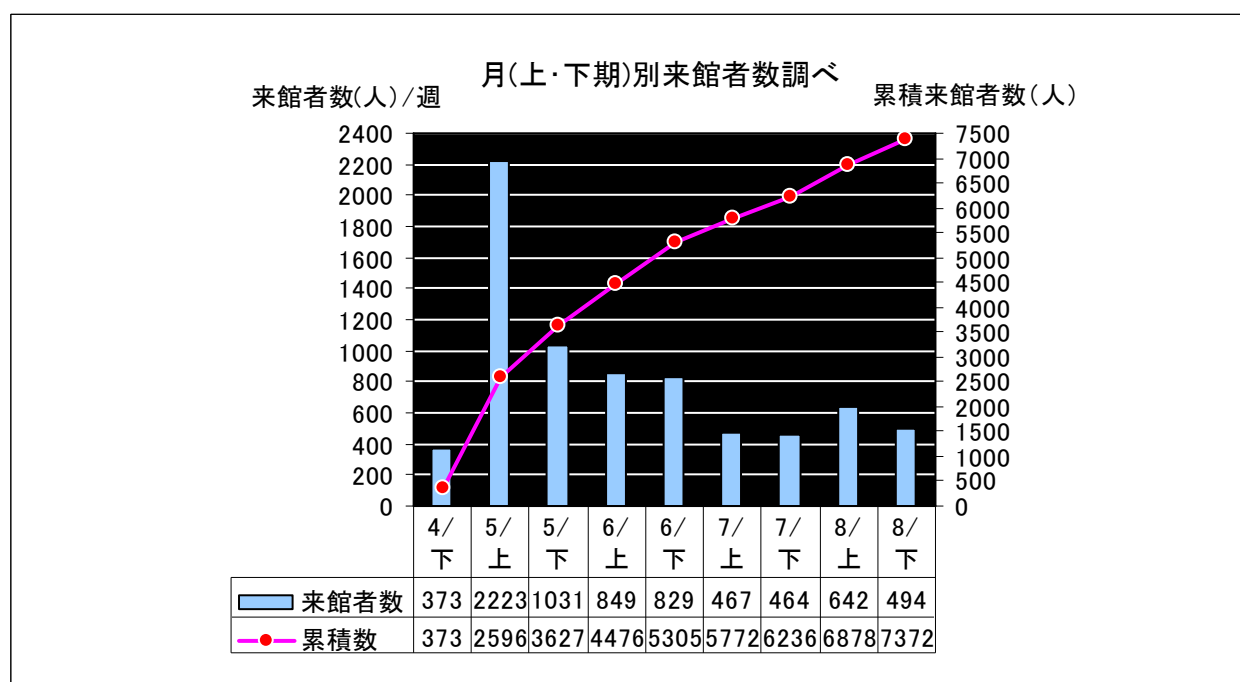
一方、秋以降は見学者の応募が減少傾向にある模様で、道路管理部、道路整備保全公社等でPRや応募方法の改善などを模索中とのことです。

なお、その一環として、これまでの往復はがきでの応募方法に加え、資料館への来館者で、条件が整えばその場での見学参加、或いは予約を行えるよう、変更されることになりました。協力会員の方々には、別途

ご連絡申し上げた活動（連絡）要領となりますので、宜しくお願い致します。

また、学生等団体での見学応募が幾つか入っている模様で、10月4日の都立田無工業高校の生徒さん30名の見学は、協会役員を中心に対応することと致しておりますが、今後は協力会員の皆様にお図りしながら、団体見学への協力方法を定めて行く予定ですので、その際は宜しくお願いします。下表は、一建補修課から提供頂いた勝関橋資料館の来館者数の集計です。

事業担当理事 興 水 昭 秀



「建設防災ボランティア協会」 からのお知らせ

1. 救命救急講習会の開催
平成 17 年 11 月 7 日(新宿消防署)
2. 平成 17 年度現場見学会の開催
平成 17 年 11 月 30 日(汐留地区)
(見学後懇親会を行います。)

編集後記

第 16 号では落丁があり、寄稿者はじめ皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

今回号は、道路施設点検、河川愛護月間、ご寄稿頂きました会員の皆様に感謝申し上げます。

発行人: 沼尻 敦

発行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿 2-3-1

財団法人東京都道路整備保全公社内

編集: 小山 幸也、加藤 基雄